

田村友一郎 ATM

ART TOWER MITO ATM YUICHIRO TAMURA

【展覧会概要】

展覧会名：田村友一郎 ATM

会 期：2024年11月2日(土)～2025年1月26日(日)

開場時間：10:00～18:00(入場は17:30まで)

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日、年末年始(2024年12月27日(金)～2025年1月3日(金))

ただし11月4日、1月13日(月・祝)は開館、11月5日、1月14日(火)休館

入 場 料：一般900円、団体(20名以上)700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※年齢のわかる身分証明書などが必要です

●一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

●学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第1金曜日(11月8日、12月6日、1月10日)100円

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助 成：芸術文化振興基金 

技術協力：朝日新聞社メディア研究開発センター

協 力：名古屋芸術大学、株式会社マツシマホールディングス、MtK Contemporary Art、
サントリーホールディングス株式会社、株式会社常陽銀行、株式会社かわまた楽器店

企 画：井関悠(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

【概 要】

田村友一郎は、これまで既存のイメージやオブジェクトを起点にした作品を手掛けてきました。写真、映像、インスタレーションからパフォーマンスや舞台まで、多彩なメディアを横断し、ある土地の持つ、固有の歴史的テーマから身近な大衆的テーマまで幅広い着想源をもとに、現実と虚構を交差させた多層的な物語を構築することで、既存の歴史や記憶へ新たな解釈を付与し、それらを現代へと接続する点が彼の作品の特徴といえるでしょう。

本展では当館英語表記「Art Tower Mito」の略称「ATM」から着想を得た新作《ATM》を発表します。来場者は、田村がこれまで書き綴った膨大なテキストを手がかりとして生成 AI が創作するショートストーリーによって、田村の作品世界へと導かれます。ナレーションや語り手を伴った物語、説話、エピソードのような形態で、ナラティブな要素をもつ作品を構築してきた田村は、作品の出発点にはテキストの述作があると言います。新作《ATM》では、この述作という行為を生成 AI に委ねることで、田村の過去作の断片を辿りながら新たな物語を紡ぎ出すことを試みます。

【作家略歴】

1977 年富山県生まれ、京都府在住。

日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。2013 年から 14 年にかけてベルリン芸術大学空間実験研究所在籍。近年の個展に「Milky Mountain/裏返りの山」(Govett-Brewster Art Gallery、ニュージーランド、2019)、「叫び声/Hell Scream」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2018)、「試論：栄光と終末、もしくはその週末/Week End」(小山市立車屋美術館、2017)、グループ展に「未完の始まり：未来のヴンダーカンマー」(豊田市美術館、2024)、「ワールド・クラスルーム」(森美術館、2023)、「Before/After」(広島市現代美術館、2023)、「DOUBLE VISION」(大館、香港、2022)、「ギフト、ギフト、」(八戸市美術館、2021)、「ボイスオーバー」(滋賀県立美術館、2021)、「Readings from Below」(Times Art Center Berlin、ベルリン、2020)、「Participation Mystique」(明当代美術館、上海、2020)、「話しているのは誰？ 現代美術に潜む文学」(国立新美術館、2019)、「わたしはどこにいる？ 道標(サイン)をめぐるアートとデザイン」(富山県美術館、2019)、「The Fabric of Felicity」(Garage Museum of Contemporary Art、モスクワ、2018)、日産アートアワード 2017、「Festival Future Nows」(ハンブルガー・バーンホフ現代美術館、ベルリン、2017)、「2 or 3 Tigers」(世界文化の家、ベルリン、2017)、「BODY/PLAY/POLITICS」(横浜美術館、2016)、「物語りのかたち」(せんだいメディアテーク、2015)、「これからの写真」(愛知県美術館、2014)、恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2014)、「MOT アニュアル 2012 風が吹けば桶屋が儲かる」(東京都現代美術館、2012) などがある。国際芸術祭「あいち 2022」、ヨコハマトリエンナーレ 2020、2019 アジア・アート・ビエンナーレ(台湾)、釜山ビエンナーレ 2018、SeMA ビエンナーレ：メディアシティ・ソウル 2014、瀬戸内国際芸術祭 2013 など、国内外の多数の国際芸術祭にも参加している。

田村友一郎ウェブサイト：<https://damianoyurkiewich.com/>

【本展のポイント】

○ 田村友一郎 過去最大規模の個展

田村友一郎は、国際芸術祭「あいち2022」、ヨコハマトリエンナーレ2020、2019アジア・アート・ビエンナーレ（台湾）、釜山ビエンナーレ2018、SeMAビエンナーレ：メディアシティ・ソウル2014、瀬戸内国際芸術祭2013など数多くの国際芸術祭へ参加し国内外で活躍する、現在最も注目を集める現代美術家のひとりです。本展は田村の7年ぶり、過去最大規模の個展となります。

○ 生成 AI が紡ぐ物語

本展において田村は、当館英語表記「Art Tower Mito」の略称「ATM」から着想を得た新作インスタレーション《ATM》を発表します。ナラティブな要素をもつ作品を構築してきた田村が、これまで書き綴ったテキストをもとに、自身の作品の根幹にある書きあらわすという行為を生成AIに委ね、生成AIはそれを手がかりに、新たな物語を機械的に提示することを試みます。

○ 田村の再構築

新作インスタレーション《ATM》は、田村の過去作の断片群によって構成されます。本展を訪れる来場者は、生成AIによって紡ぎ出されるストーリーに導かれ、遺物としての田村の過去作を通り抜けながらも、新たな“田村”に出会うことになります。そのような意味では、回顧展に擬態した新作展ともいえるでしょう。

【関連企画】

- ・特に記載がない限り参加費無料、どなたでもご参加いただけます。ただし、展覧会入場券が必要です。
- ※無料でご入場いただける方についてはチケット情報をご確認ください。
- ・申し込み方法は当館ウェブサイトをご覧ください。

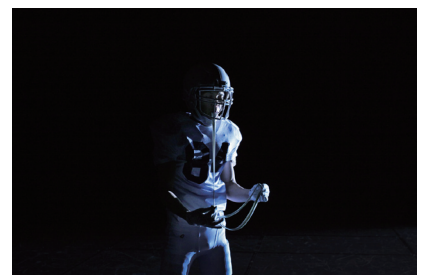
■ アーティストトーク

日時：11月2日（土）13:30～15:00
会場：会議場
定員：80名

■ 田村友一郎《テイストレス》上映

既存のイメージやオブジェクトを起点に、現実と虚構を交差させつつ多層的な物語を構築するインスタレーションやパフォーマンスを手掛けてきた現代アーティスト・田村友一郎による初の劇場作品《テイストレス》。2021年京都芸術劇場春秋座での公演記録映像を当館ACM劇場にて上映します。

日時：2025年1月11日（土）14:00～15:00
会場：ACM劇場
定員：150名
構成：田村友一郎 出演：山崎皓司、荒木悠
ドラマトゥルク：前原拓也



《テイストレス TASTELESS》
京都芸術劇場・春秋座、劇場作品、2021

■ 赤ちゃんと一緒に美術館散歩

小さなお子さんと一緒に、安心して、気兼ねなく美術館を楽しんでいただくためのツアーです。

日時：12月5日（木）10:30～12:00

会場：現代美術ギャラリー

定員：5組程度 ※要申込／先着順

料金：保護者のみ1,500円、入場料無料の保護者1,000円

※保護者2人目からは通常入場料

申込期間：11月2日（土）～



■ 託児付きギャラリーツアー（展示解説あり）

お子さんを隣接するワークショップ室でお預かりします。大人はギャラリーでゆっくり作品を楽しむツアーです。

日時：12月8日（日）11:00～12:00

会場：現代美術ギャラリー

定員：5組程度 ※要申込／先着順

託児対象年齢：6ヶ月以上

料金：保護者のみ1,500円、入場料無料の保護者1,000円

※保護者2人目からは通常入場料

申込期間：11月2日（土）～

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：11月16日（土）より毎週土曜日 各日 14:30～40分程度

※ただし、他のプログラムとの関連で中止となる場合があります。

会場：現代美術ギャラリー

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。



【同時開催】

■ クリテリオム101 渡邊拓也

「クリテリオム」は、若手作家と当館学芸員が共同企画する新作中心の展覧会シリーズです。

クリテリオム101では、滞在先で出会った人との関わりや、その地に見られる社会状況の観察から、移動や労働をめぐる考察を映像で表現する渡邊拓也を紹介します。

渡邊は、国内外各地でアーティスト・イン・レジデンスに参加し、また限界集落に住み込むなど、一定期間の滞在を通して綿密に対象をリサーチすることで、普遍的な主題を見出します。渡邊のカメラが捉えるのは、時には滞在先で出会った協力者であり、時には彼らを作家自身が自らの身体で捉え直す姿です。近年は、シンガポール、ロンドン、そして福井県の小原に滞在し、各地で植物が人間の生活や行動あるいは経済に及ぼす影響に着目して調査を続けています。物を言わず動くこともない植物は、人間の都合で利用される客体として認識されますが、人間社会を含む環境の中の「行為主体」として捉え直すことで、複雑に絡まり合う植物と人間の関係性に迫ります。

会期：11月2日（土）～2025年1月26日（日）

会場：現代美術ギャラリー第9室

料金：展覧会入場料に含まれます。

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協賛：有限会社アジアシステムサービス

企画：竹久侑（水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

※クリテリオムは、ラテン語で「基準」を意味し、若手作家の新作を中心に紹介する企画展です。



参考図版：Work-in-Progress in Ohara, 2024-

■ 造形実験室

2022年9月より月替わりでさまざまな素材を使って造形を楽しむ2日間の「造形実験室」を開催しています。年齢を問わず、どなたでも参加できます。

日時：11月15日（金）、16日（土）、12月6日（金）、7日（土）、
2025年1月17日（金）、18日（土）、2月21日（金）、22日（土）
各日10:30～12:00／13:30～15:30

会場：現代美術ギャラリー ワークショップ室

料金：無料 ※予約不要



【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご希望の方は鳥居までお問合せください。

1



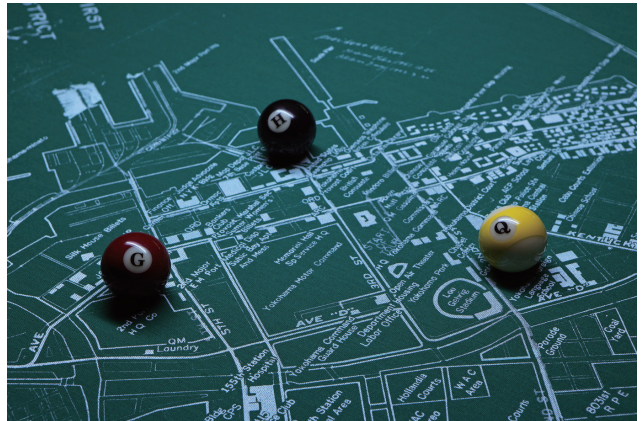
2



3



4



5



6



7



8



9



10



1. 《栄光と終焉、もしくはその終演 / End Game》「日産アートアワード2017」、BankArt NYK、横浜、インスタレーション、2017
2. 《Hey Daddy, Hey Brother》「2 or 3 Tigers」、世界文化の家、ベルリン、インスタレーション、2017
3. 《見えざる手 Invisible Hands》国際芸術祭「あいち2022」、常滑市、インスタレーション、2022／ワールド・クラスルーム、森美術館、2023
4. 《裏切りの海 Milky Bay》「BODY/PLAY/POLITICS」、横浜美術館、横浜、インスタレーション、2016／アジアン・アート・ビエンナーレ、国立台湾美術館、台中、2019
5. 《MJ》「六本木クロッシング2019」、森美術館、東京、インスタレーション、2019
6. 《Sky Eyes》「話しているのは誰？現代美術に潜む文学」、国立新美術館、東京、インスタレーション、2019／神秘的参与、明当代美術館、上海、2020
7. 《マダガスカルの石 The Stone of Madagascar》2015
8. 《TiOS》「未完の始まり：未来のヴァンダーカンマー」、豊田市美術館、インスタレーション、2024
9. 《予期せぬギフト Unexpected Gift》「ギフト、ギフト、」、八戸市美術館、インスタレーション、2021
10. 《消えた沈黙 Silence in the Mist》「ボイスオーバー 回って遊ぶ声」、滋賀県美術館、インスタレーション、2021

プレス向け内覧会のお知らせ

2024年11月1日（金） 14:00～15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：田村友一郎（出品作家）

井関悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

渡邊拓也（クリテリウム 101 出品作家）

竹久侑（クリテリウム 101 企画担当・水戸芸術館現代美術センター芸術監督）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：井関悠（主任学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

* 詳細は公式X http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行き
（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線の水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信への移行を希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名を cacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、お申込みください。

